

つらぬく“夢のハイウェイ”

九州縦貫高速自動車道

□□□□□□□□□□
 時速一〇〇キロの道

「名神高速道路」などで、最近にわかにその名を売り出してきた「高速自動車道」というのは、北は北海道から、南は九州の鹿児島まで、日本列島を縦貫する自動車専用道、いわば非常に高級な超幹線道路で、まさに新しい「第三の陸上交通路」ともいふべきもの。

この高速道は、幅が二十四・四メートル、その中央を幅三メートルほどのグリーン・ベルトで往きと帰りを分離し、一方通行の往復四車線となっている。

これを通る自動車のスピードは、時速八十〜百二十キロとし、道路のカーブにも、なめらかな運転ができるよう又運転者の目にも疲れを感じさせないよう「クロノイド曲線」という曲線を設計にとり入れるなどいろいろと、高速運用としての最新の設計をしている。

途中には自動車のこの路線への出入口（インター・チェンジ）をはじめ休憩や食事をしたり、ガソリンを補給したり、簡単な修理もできるいわゆるサービス・エリア

アや、ちょっと休憩するパーキング・エリアなども何カ所か設けられる。そのほか、一般の道路や鉄道などはすべて立体交差させ、また人の立入りは禁じられるから、

運動者にとっては安心して高速運転ができる「夢のハイウェイ」ということができるわけである。

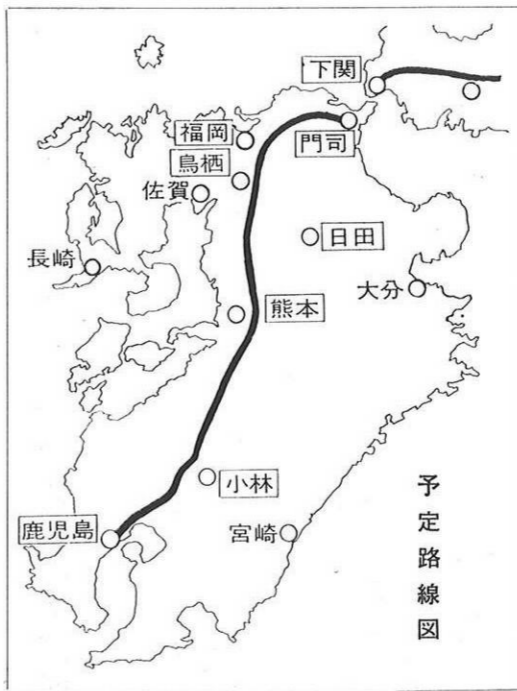
では、このような高級な道路がなぜ必要か。また、どんな目的があるのだろうか。近年のわが国は世界に類を見ないような経済の発展をとげつつあり、

輸送貨物は

量的にも質的にも、大変に増加し、又変化してきたし、さらには、国民生活水準の向上に伴って、自動車による中・長距離の観光旅行は日々に増大しており、このような新しい時代の要求に対処するためには、思

いっほう本県をも含めて九州地方や東北地方などは、先進地域にくらべて大きな所得格差を生じつつありますが、これは中央との距離が遠いということが原因といわれている。

福岡・鹿児島四時間半



予定路線図

■インター・チェンジ

一般道路から高速道路へ自動車が入り出ることができる施設。これ以外からは出入りできない。25頁のカット写真のようになめらかな曲線を描いて高速道路と接続している。

通行料金の支払いは、このインター・チェンジの所で行なわれる。一般道路から高速道路に入る場合、運転手はそのインター・チェンジの名前と時間等を記入したカードを貰い、他のインター・チェンジから出る場合に、カードを渡して料金を払うことになっている。

九州縦貫高速自動車道もこのような意義をもち、三十六年度から建設省の九州地方建設局を中心に、九州各県がこれに協力して調査が進められている。

これまでの調査結果によると、門司市を起点に福岡市―鳥栖―久留米市―南関町―菊水町―植木町―熊本市―松橋町附近―八代市―人吉市を経て鹿児島市に至る全延長約三百三十キロのコースが有力な予定路線になっており、その所要時間はバス・トラックで四時間五十分、乗用車で三時間四十分と、従来の二倍から三倍のスピード・アップになるわけである。

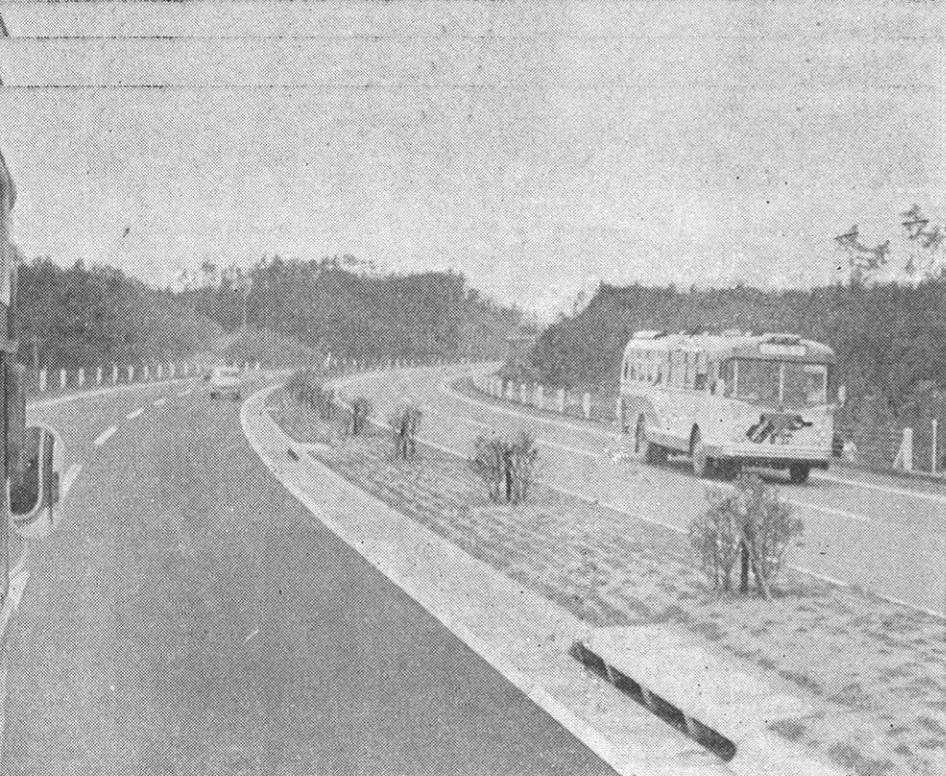
熊本市から門司まで現在約四時間が約一時間三十分、福岡まで約二時間三十分が約五十分、鹿児島まで約四時間三十分が約二

時間というように、従来の三分の一から二分の一と大幅に短縮される。

又、輸送費は六〇％以下、事故率は二〇％に減り、輸送量は二倍以上にふえる。

これによって物の交流、人の交流などが

―写真は名神高速自動車道―



活潑化し、生活領域、経済領域が二倍、三倍に拡大することになるわけである。

(註) 従来の都市間所要時間は、一級国道三号線が完全に改築された場合

一日も早く着工を

この道路は本県を南北に縦貫し、九州横断道路の整備と相まって、早急に建設されることは、県経済の発展の柱である新産業都市「不知火有明地区」の建設と育成、農業近代化の促進に大きな力となり、ひいて

■グリーン・ベルト

高速道路は上り下りの車線が、幅3cmの植樹帯で分けられる。(上の写真参照)これがグリーン・ベルトで、4~10mの間隔で木を植えて、夜間すれちがう自動車のヘッドライトで目がくらまないよう光をささげる役をもっている。

そのうえ、道路を一層美しくみせるためにも……名神高速道路では、20万本以上の木が必要であったので、約18%の苗圃を準備して苗木と芝類を育てたということである。

■親切なトンネル照明

さき一部開通した名神高速道路の例をみると、トンネル内の照明にも次のような細心の注意を払っている。ランプは蛍光灯を使用しているが、自動車の排気ガスによる煤煙の濃度が高くなりそうな所には、ナトリウム・ランプを使用して遠くまで光が届くようにする。

自動車が日中明るい外部から暗いトンネルに入ったとき、運転者の目が暗さになじむように、入口から次第に照度を下げる緩和照明設備を設ける。一部のトンネルでは、急に外へ出た際目がくらまないように、出口に日おいをして、急激な明るさの変化をおさえる。

名神高速道路の経済効果

- ・最初に着工した尼崎栗東間に於いてその効果の一例を金額に換算すると、一年間で合計百十三億円になる。
 - ・輸送費の節約額は八十七億円
 - ・事故減少で損害減少額四億円
 - ・在庫節約で利子負担軽減額一億円
 - ・土地利用の高度化で利益二十一億円
- これは尼崎栗東間の建設費の三分の一にあたる。

メモ

メモ